

卒業生に対する 学修成果に関する調査報告

令和2年10月
志學館大学 学務委員会
志學館大学 IR室

1. 趣旨

学生が本学での4年間の学修の成果をどのように受け止めているかを調べるために、2019年度学士課程卒業生を対象に、アンケート調査を実施した。

本学のディプロマポリシー（以下、DPという。）とそれに基づくカリキュラムは、2018年度入学者より大幅に改訂された。今回対象とした卒業生は、それらの下での教育を受けた者ではないが、今後の追跡調査のために、敢えて現在のDPを基準として調査した。

本報告において、特に断りのない場合、[]内の数値は、昨年度卒業生に対して実施した同様の調査（以下「2018調査」という）における値を示す。

2. 資料と調査方法

アンケートの設問は、現在のDPを基に6つのカテゴリーに分けられる14項目とした。これらについて、「大学でのさまざまな学修によって、設問の能力や知識を身につけたと感じているか」を問い、「4. 大変身について」、「3. 身について」、「2. 少しは身について」、「1. 身につかなかった」の4つの選択肢から回答を求めた。

各設問を、DPカテゴリーと対応させて以下に示す。なお、本学のDPは、巻末に付録として示してある。なお、これらの設問は、「平成30年度学生生活調査」の学修成果に係る設問とできるだけ同じとした。

- DP1 Q1. 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性
- DP2 Q2. 人類の文化、社会と自然に関する教養
- Q3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力
- Q4. コンピュータの操作方法や情報処理技術
- Q5. コミュニケーションの能力
- Q6. 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢
- DP3 Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能
- Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力
- DP4 Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え
- Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力
- DP5 Q11. 倫理観
- Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識
- DP6 Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解
- Q14. 国際人として活躍する素地

調査は、ユニバーサルパスポートシステムを用いて行った。なお、卒業式の日までに未回答であった者を対象として、紙ベースの追加調査も行った。学科ごとの回答数中の紙ベースの回答の割合は、0.33から0.62までと差が大きく、法学部でこの割合が高かった。

3. 分析結果

評価対象者は270 [256]人で、回答率は、84% [89%]であった（表1）。回答率には、学科間で差があり、法学部では昨年度に比べて大幅に低下した。この回答率の低さと、「2. 資料と調査方法」で述べた回答方法の差を合わせて考えると、回答者標本集団に、両学部でやや異なる偏りを与えている可能性がある。

各学科及び学士課程全体（以下「全学」という。）の学生の回答の平均値、標準偏差、最頻値を表2～15に示す。なお、すべての回答の平均値は3.14であったことに留意されたい。

表1 調査対象及び回答者の数

学科	対象学生数	回答者数	回答率
心理臨床	105 [97]	103 [80]	.98 [.82]
人間文化	46 [40]	40 [37]	.87 [.93]
法律	75 [68]	49 [62]	.65 [.91]
法ビジネス	44 [41]	31 [39]	.70 [.95]
(未記入)		3	
合計	270 [246]	226 [218]	.84 [.89]

3.1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性

この設問は、本学の建学の精神に関連するものである。

各学科の平均値は、全学平均値である 3.2 [3.0] 近傍にあり、学科間の差は、Q4、Q7、Q10、Q11、Q13 とともに、全設問中でもっとも小さかった。

最頻値は、全学及びすべての学科で 3 であった。

表 2 Q1 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.1 (.86)	3	3.1 (.74)	3
人間文化	3.2 (.59)	3	3.0 (.76)	3
法律	3.3 (.66)	3	3.0 (.71)	3
法ビジネス	3.2 (.76)	3	3.0 (.79)	3
全学	3.2 (.77)	3	3.0 (.74)	3

3.2 人類の文化、社会と自然に関する教養

この設問は、主に教養教育あるいは共通教育に関連するものである。

全学での平均値は 3.1 [2.9] で、学科間では、法律学科が 3.3 [人間文化学科が 3.1] でもっとも高かった。標準偏差は 0.79 と中程度であった。

最頻値は、法律学科では 3, 4 回数で、全学及び他の学科では 3 であった。

表 3 Q2 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	2.9 (.83)	3	2.9 (.75)	3
人間文化	3.1 (.76)	3	3.1 (.89)	3
法律	3.3 (.71)	3, 4	2.8 (.75)	3
法ビジネス	3.2 (.72)	3	2.8 (.76)	3
全学	3.1 (.79)	3	2.9 (.77)	3

3.3 物事を科学的に、論理的に考える方法や力：

全学での平均値は 3.1 [3.0] で、学科間では法律学科が 3.3 [人間文化学科が 3.1] でもっとも高かった。

最頻値は、全学及びすべての学科で 3 であった。

表 4 Q3 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0 (.80)	3	3.0 (.86)	3
人間文化	3.2 (.75)	3	3.1 (.88)	3
法律	3.3 (.62)	3	3.0 (.86)	3
法ビジネス	3.1 (.83)	3	3.0 (.84)	3
全学	3.1 (.77)	3	3.0 (.85)	3

3.4 コンピュータの操作方法や情報処理技術

全学での平均値は 3.0 [2.9] で、やや低かった設問 2 つ（ほかに Q14）の中の一つである。学科間の差は、Q1、Q7、Q10、Q11、Q13 とともに、全設問中でもっとも小さかった。

最頻値は、法律学科では 3, 4 回数で、全学及びその他の学科では 3 であった。

表5 Q4に関する統計的代表的値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.78)	3	3.0(.79)	3
人間文化	3.0(.82)	3	3.1(.74)	3
法律	3.0(.82)	3,4	2.9(.87)	3
法ビジネス	3.1(.70)	3	2.8(.87)	2
全学	3.0(.78)	3	2.9(.82)	3

3.5 コミュニケーションの能力

平均値は、法律学科で特に高く、3.6であった[学科間の差は少なかった]。なお、この値はすべての設問・学科中でもっとも高い値である。

最頻値は、法律学科で4 [法ビジネス学科で4]、他の学科で3であった。

表6 Q5に関する統計的代表的値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.87)	3	3.1(.80)	3
人間文化	3.2(.71)	3	3.2(.78)	3
法律	3.6(.64)	4	3.0(.85)	3
法ビジネス	3.2(.67)	3	3.1(.90)	4
全学	3.2(.80)	4	3.1(.82)	3

3.6 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢

全学の平均値が3.3 [3.2] と、Q7とともにもっとも高かった設問のひとつである。学科間では、法律学科で高く、法ビジネス学科で低かった [学科間の差は少なかった]。

最頻値は、心理臨床学科のみが3で、他の学科は4であった。最頻値が4となった学科がもっとも多く、全学でも4であった設問の一つ（他にQ7）である。

表7 Q6に関する統計的代表的値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.78)	3	3.1(.84)	4
人間文化	3.3(.73)	4	3.2(.89)	4
法律	3.4(.73)	4	3.1(.76)	3
法ビジネス	3.1(.93)	4	3.2(.79)	3
全学	3.3(.78)	4	3.1(.81)	3

3.7 専門分野や所属する学科の専門知識や技能

全学の平均値は3.3 [3.2] と、Q6とともに全設問中でもっとも高かった。また、学科間の差は、Q1、Q4、Q10、Q11、Q13とともに、全設問中でもっとも小さかった。

最頻値は、人間文化学科のみが3で、他の学科は4であった。最頻値が4となった学科がもっとも多く、全学でも4であった設問の一つであった（他にQ6）。

表 8 Q7 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.76)	4	3.3(.72)	4
人間文化	3.3(.72)	3	3.0(.82)	3
法律	3.4(.73)	4	3.2(.75)	3,4
法ビジネス	3.3(.78)	4	3.1(.83)	4
全学	3.3(.74)	4	3.2(.77)	3

3.8 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力

この設問は、課題発見・解決型教育及びアクティブラーニングに関連するものである。

平均値は、全学では 3.1 で、法律学科が 3.4 とやや高かった [学科間の差は小さかった]。全学の標準偏差は、0.73 と、Q11 とともに全設問中でもっとも小さかった。これは、学生の受け止め方が相対的に一様であることを示す。

最頻値は、すべての学科で 3 であった。

表 9 Q8 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.76)	3	2.9(.75)	3
人間文化	3.1(.74)	3	3.0(.83)	3
法律	3.4(.69)	3	3.1(.78)	3
法ビジネス	3.3(.58)	3	2.9(.79)	3
全学	3.1(.73)	3	3.0(.78)	3

3.9 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え

この設問は、主にキャリア教育及び職業観の涵養に関連するものである。

平均値は、人間文化学科の 2.9 から法律学科の 3.6 まで大きな差があった。この学科間の差は、すべての設問の中でもっとも大きかった。また、法律学科の 3.6 [法ビジネス学科の 3.3] は、すべての設問の中でもっとも高いものであった。

最頻値は、心理臨床学科と法律学科で 4、法ビ学科で 3 と 4 同数で、全学でも 4 であった。

表 10 Q9 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.83)	4	3.1(.83)	3
人間文化	2.9(.84)	3	3.1(.88)	3
法律	3.6(.61)	4	3.1(.85)	4
法ビジネス	3.4(.66)	3,4	3.3(.85)	4
全学	3.2(.79)	4	3.1(.84)	4

3.10 生涯にわたって学習を続けていく意思や力

平均値は、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.1] 近傍にあり、学科間の差は、Q1、Q4、Q7、Q11、Q13 とともに、全設問中でもっとも小さかった。

最頻値は、人間文化学科と法律学科で 4、他の学科では 3 であった。

表 11 Q10 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.80)	3	3.1(.85)	3
人間文化	3.3(.75)	4	3.1(.88)	3
法律	3.4(.67)	4	3.0(.86)	3
法ビジネス	3.2(.78)	3	3.2(.94)	4
全学	3.2(.76)	3	3.1(.87)	4

3.11 倫理観

平均値は、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.0] 近傍にあり、学科間の差は、Q1、Q4、Q7、Q10、Q11、Q13 とともに、全設問中でもっとも小さかった。全学の標準偏差は、0.73 と、Q8 とともに全設問中でもっとも小さかった。

最頻値は、全学でもすべての学科でも 3 であった。

表 12 Q11 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.81)	3	3.0(.90)	3
人間文化	3.1(.67)	3	3.1(.88)	3
法律	3.2(.62)	3	2.9(.83)	3
法ビジネス	3.3(.68)	3	3.0(.78)	3
全学	3.2(.73)	3	3.0(.85)	3

3.12 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識

平均値は、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.1] 近傍にあったが、法律学科で相対的に高く、3.3 であった [学科間の差は小さかった]。最頻値も法律学科では 4 であり、他学科はすべて 3 であった。全学の標準偏差は、0.85 と比較的大きかった。

表 13 Q12 に関する統計的代表値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値 (SD)	最頻値	平均値 (SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.93)	3	2.9(.87)	3
人間文化	3.0(.77)	3	3.1(.86)	3
法律	3.3(.72)	4	3.0(.79)	3
法ビジネス	3.2(.82)	3	3.1(.87)	3
全学	3.1(.85)	3	3.0(.84)	3

3.13 多様な言語・社会・文化に対する理解

この設問は、異文化理解、多文化共生と呼ばれる領域に関連するものである。

全学の回答の平均値は 3.2 [2.9] であり、学科間の差は、Q1、Q4、Q7、Q10、Q11 とともに、全設問中でもっとも小さかった。全学の標準偏差は、0.82 と比較的大きかった [人間文化学科で 3.2 と高く、心理臨床学科で 2.8 と低く、学科間で差が大きかった]。

最頻値は心理臨床学科と法ビ学科で 4、他の学科で 3 であった。

表 14 Q13 に関する統計的代表的値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.89)	4	2.8(.89)	3
人間文化	3.2(.74)	3	3.2(.83)	4
法律	3.2(.77)	3	3.0(.80)	3
法ビジネス	3.3(.79)	4	3.0(.81)	3
全学	3.2(.82)	3,4	2.9(.85)	3

3.14 国際人として活躍する素地

この設問は、いわゆるグローバル人材育成に関連するものである。

全学の回答の平均値は 2.8 [2.6] で、2018 調査と同じく全設問中でもっとも低かった。学科間でも、心理臨床学科の 2.5 [2.4] から法ビジネス学科の 3.0 [人間文化学科の 2.9] まで大きな差があった。なお、心理臨床学科の 2.5 はすべての設問・学科中でもっとも低い値であった。全学の標準偏差は .93 で、すべての設問中でもっとも大きかった。留学や海外研修などの経験の有無の個人差を反映していると推定される。

最頻値は、心理臨床学科で 2、全学及び他の学科では 3 であった。これは、全設問、全学科の中で最頻値が 2 となった唯一の例であった。

表 15 Q14 に関する統計的代表的値

学科	2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.5(.99)	2	2.4(1.03)	2
人間文化	2.8(.78)	3	2.9(.95)	3
法律	2.9(.90)	3	2.6(.99)	2
法ビジネス	3.0(.78)	3	2.7(.85)	3
全学	2.8(.93)	3	2.6(.99)	3

3.15 設問項目ごとのまとめ

本調査では、全回答数 3,162 [3,052] のうち 43% [41%] を選択肢 3 が占め、また設問ごとの回答平均値の大半が 3.0±0.2 程度にあるという「中庸」的な結果であったが、ごく少数ではあるが、それら以外（平均値 3 から離れた値であったり、最頻値が 2 や 4 であった場合など）であった事項から、DP に掲げる教育達成目標の実現度を学生がどのように感じているか、ある程度浮き彫りにできたと考える。

全学で、回答平均値が高く、最頻値が 4 である学科が多い設問は、学生の達成感が高いと判断した。この群には、「自ら学ぶ姿(Q6)」、「専門知識や技能(Q7)」が入る。「職業観(Q9)」も、達成感が高かった。一方、回答の傾向が逆の場合は、達成感が低いと判断できる。これには、「国際人として素地(Q14)」が当てはまる。

回答平均値の学科間での差が小さく、全学での標準偏差が小さい設問は、全学一様な教育になっていると判断した。これには「个性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」、「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」、「倫理観(Q11)」、「多様な文化等の理解(Q13)」が入る。一方、逆の場合は、学生の達成感に学科間での差が大きかったと言える。これには、「国際人として素地(Q14)」が当てはまる。

学科別の特色も浮き彫りにされた。人間関係学部 2 学科では、特別な能力が取り立てて達成されているという傾向は見られなかった。法学部 2 学科では「コミュニケーション能力」、「専門知識・技能」の獲得と「職業観(Q9)」、「異文化理解」の涵養が達成されたと感じているようである。一方、心理臨床学科では、「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」、「国際人としての素地(Q14)」での達成感が低いようであった。

全学での平均値が 3.0 近傍で各学科での最頻値がすべて 3 又はそれら以下である項目には、「教養(Q2)」、「科学的・論理的思考力(Q3)」、「問題発見・解決能力(Q8)」、「倫理観(Q11)」、「国際人の素地(Q14)」があった。

4. DP 項目ごとの受け止め方： 学士課程での回答を、各設問を対応する 6 つの DP カテゴリー別にまとめて分布を調べた結果を、図 1 に [2019 調査] 結果を、図 2 には [2018 調査] 結果を示す。

[2018 調査] と同様に [2019 調査] でも、DP1～3、DP5 及び DP6 では、3 にモードを持ち、左に裾を引く、似通った分布を示したが、DP4 は、DP4 では 3・4 にモードがあり、異なる分布を示した。ただし、昨年度に異なる分布とした DP6 では、引き続き、2 と 1 の比率が比較的高いものであった。

これらのことは、DP4「職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している」の達成度は比較的高く、DP6「多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている」すなわちグローバル化対応能力の達成度は、昨年度に比べて改善されはいるが、なおやや低いと学生が感じていることを示唆していると考えられる。

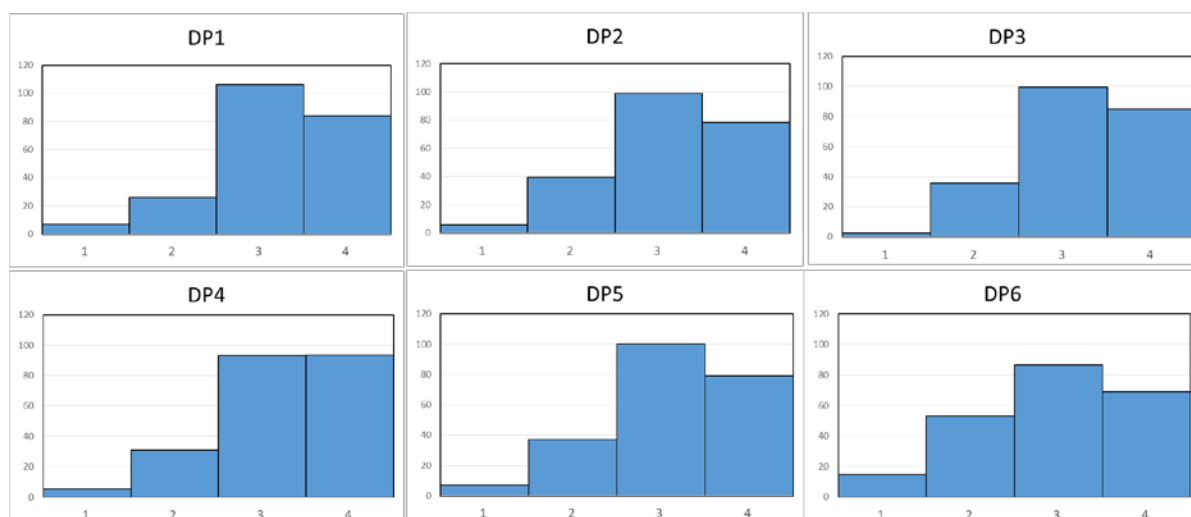


図 2 GP カテゴリー別の回答の分布 [2019 調査]

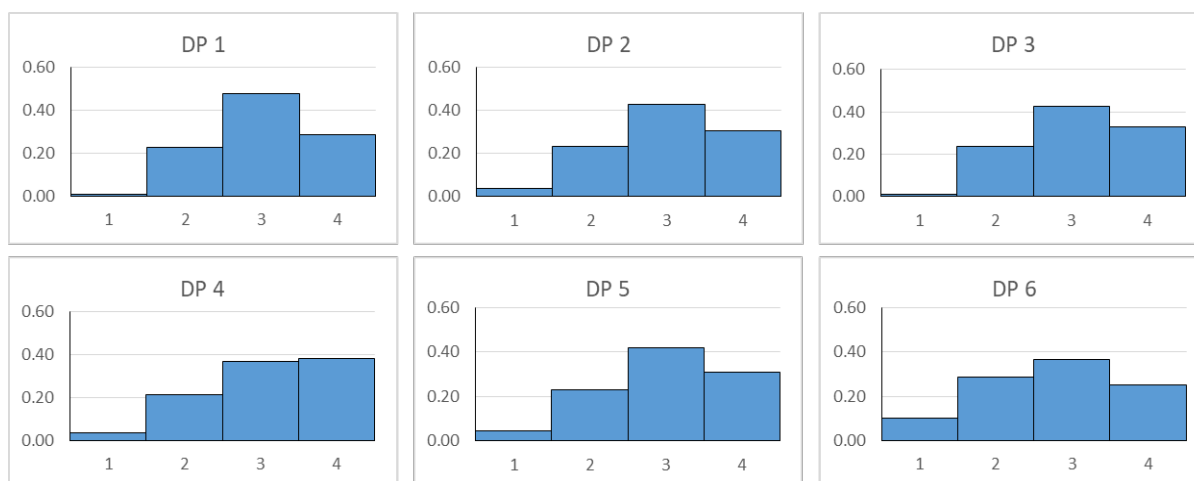


図 1 GP カテゴリー別の回答の分布 [2018 調査]

5. 結語

今後、質問項目等を維持しつつ、現在の DP の下で編成されたカリキュラムで4年間の教育を受けた学生の卒業時を跨ぐ期間にわたってモニタリングを続けることで、本学の教育の成果と達成度に関する貴重な資料が形成できると考える。

【付録】

志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性が身につけている。
- 2 人類の文化、社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法、情報処理技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ、総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている。